

## 都市計画道路沼津南一色線の整備方針について

### 1 : 概要

都市計画道路沼津南一色線は、東名、新東名の IC 及び国道 246 号と沼津市中心市街地をつなぐ主要な幹線道路になります。この道路の整備により、隣接する国道 1 号及び周辺道路の渋滞解消が見込まれるとともに、渋滞回避のため生活道路に流入する通過車両も減少することから交通安全上の効果も期待されます。

このため、街路事業として平成 8 年度から事業に着手し、用地買収も概ね完了した中で、工事を進めてきましたが、道路計画上に極めて価値の高い高尾山古墳が発見されたことから、工事を中断し、平成 27 年度に有識者による道路と古墳の両立に関する協議会（以下「協議会」）を開催して道路計画の検討を行ってきました。

協議会の総括として 6 案の選択肢が示されたことを受け、沼津市では、関係者と協議や相談を進めてきましたが、整備案 H を最適な案として判断したことから、この案を基に来年度から具体的な設計を進めていきます。

整備案 H : 東側 2 車線（墳丘部と神社の間を橋梁※で通過）

西側 2 車線（墳丘部の下をトンネルで通過）

※協議会の議論では、東側 2 車線は、古墳の上に盛土を行い、古墳を保護することを検討しておりましたが、周辺の既存地質データから判断すると、道路として使用するには地盤の強さが十分ではなく、古墳ごと沈下する恐れがあること、対策として地盤改良を行うと古墳自体を痛めてしまうことから、盛土形式より古墳への影響の少ない、橋梁形式を選択しました。

### 2 : 整備案 H 選定の理由

都市計画道路沼津南一色線は、道路構造基準における都市部の一般道路で、最も規格が高く交通量も多い道路のため、安全性や円滑性の高い構造が求められます。加えて高尾山古墳の重要性から、原位置での古墳の保存、利活用といった視点も必要になります。このようなことから、道路及び文化財保護の関係者と協議会の総括である 6 案について協議・相談を行いながら検討を行ってきました。

その結果、整備案H以外の 5 案は、通行車両の安全性や地元の東西道路の確保といった観点から採用が困難との結論に至りました。整備案Hは、橋梁形式とすることで、古墳周溝部等に橋脚等を設ける必要があるものの、橋梁下のスペースの活用も可能となり、隣接市有地と一体となった古墳の利活用も考えられることから、整備案Hが最適と判断いたしました。

(別添：(都) 沼津南一色線 整備計画比較表)

### 3：道路整備の方針

都市計画道路沼津南一色線は、東名、新東名の IC 及び国道 246 号と沼津市中心市街地をつなぐ主要な幹線道路として位置づけられています。一方で、高尾山古墳は、東日本で最古級、最大級の古墳であり、考古学上における高い価値を有しています。

このように、沼津の中心市街地への表玄関に位置し、極めて価値の高い高尾山古墳は、都市計画道路沼津南一色線と一体となって、沼津市にとってシンボル性の高い施設となる要素を兼ね備えています。そのため、具体的な整備にあたっては、道路構造物と古墳を含む周辺までを一体的な空間として設計し、質の高い整備を行うことで、良好な景観の形成を目指します。

なお、橋梁とトンネルを組み合わせる計画を採用したことで、当初と比べ事業費は増加しますが、整備にあたってはコストの縮減に努めつつ、国の補助金や起債制度の活用により市の事業費負担の平準化を図っていきます。

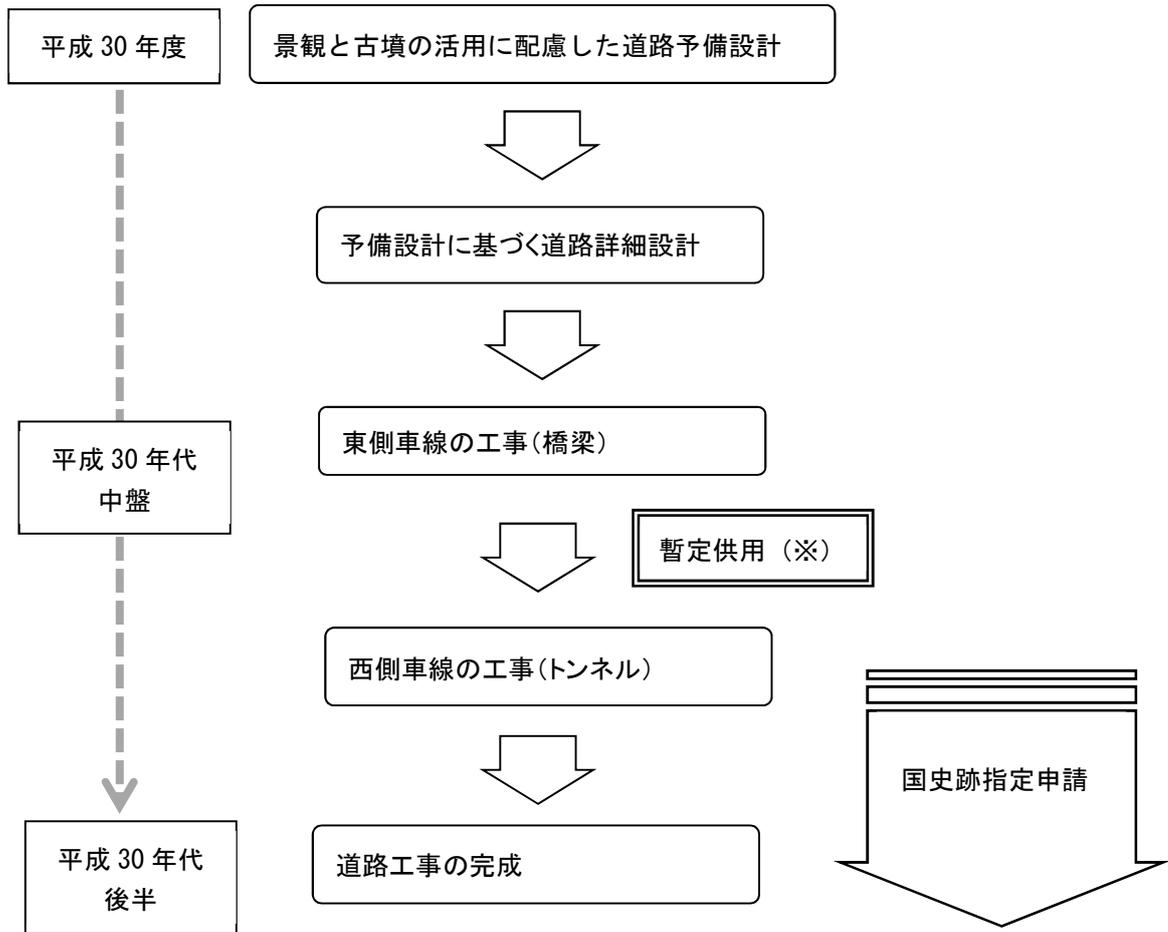
### 4：古墳の活用方針

高尾山古墳は、当時、本格的な古墳を築造できるような権力者がこの地域にいたことを示すもので、古墳時代初頭の歴史研究においても重要な位置づけとなっています。現在の人々がその魅力や価値を享受するとともに次世代、次々世代に受け継いでいけるよう、質の高い道路と一体となった整備を進め、本市のシンボリックなモニュメントとして、古墳を現地に保存し、国史跡指定を目指していきます。

また、隣接市有地に古墳説明板などのガイダンス施設や駐車場を整備することで、訪れる方に高尾山古墳についての理解を深めてもらうとともに、利用しやすい環境の整備に努めていきます。

さらに、近隣に所在する古墳や神社なども含めた歴史的資源の価値を、将来に確実に伝え、親しんでいただけるよう、高尾山古墳を拠点とした整備・活用に努めていきます。

## 5 : 概略スケジュール (案)



※橋梁整備が完了した段階で、上下1車線での暫定供用を行う予定です。

## 6 : その他

本日 19 時から東熊堂自治会館において、東熊堂沼津南一色線対策委員会役員会及び西熊堂まちづくり委員会役員会に対して説明会を開催し、本方針を説明します。